

関根 雅則 教授

【せきね まさのり】

1997年明治大学大学院博士後期課程単位取得。同年高崎経済大学経済学部にて講師として就任。2009年から教授。現在の担当科目は、イノベーション論、ベンチャービジネス論、経営戦略論、戦略的経営論。



- 経営戦略論
- 戦略的経営論
- イノベーション論

研究テーマおよび担当科目

私の研究テーマを一言でいうと「企業がいかに効果的なイノベーションを遂行するか」です。イノベーションとは、直訳すると「革新」とか「刷新」という意味になりますが、企業との関係で用いる場合、「新しい製品やサービスの開発」、「新しい生産方法の確立」、「新しい市場の開拓」などといった意味になります。これらの活動は、企業の存続あるいは発展にとって極めて重要、というより、むしろ不可欠です。例えば富士フィルムという会社が、写真用フィルムだけを生産・販売していたらどうなっていたでしょう。おそらく現在のような規模まで成長していなかったと思います。写真用フィルムで培った技術を応用し、液晶ディスプレイ用高機能フィルムや医療機器、化粧品などを開発し販売しているからこそ今の同社があるのです。イノベーションというのは難しい話ではなく、この事例のようなことを意味します。私は、こうしたイノベーションが企業においていかにうまく実現されるかについて研究しています。

ところで、私の担当科目は4つあります。それは「イノベーション論」、「ベンチャービジネス論」、「経営戦略論」、「戦略的経営論」です。イノベーションについては、上述したとおりですので説明を省きます。ベンチャービジネスとは、イノベーションを遂行する新興の中小企業を意味します。講義では、ベンチャービジネスの概念や支援機関、さらにはそのマネジメントなどについてお話しします。経営戦略とは、企業においてイノベーションの指針となるものです。講義では、先の事例のような企業による新規事業の確立や企業が同業他社との競争に勝つための方策などについてお話しします。戦略的経営は、戦略と組織の関係をテーマとします。講義では、イノベーションや戦略を創出ないし実行しやすい組織マネジメントのあり方などについてお話しします。

なお、私の担当するゼミですが、何をやっているのかについて簡単に説明すると、2年次には、専門分野に限定せず経営学全般（経営学の基礎）について研究します。3年次には、専門分野の教科書に加え、「日経ビジネス」という雑誌を使って実存する企業の事例を研究します。4年次には、それぞれのゼミ員が自分自身で研究テーマを決め卒業論文制作に取り組みます。みんな和気藹々とやっています。

イノベーションはなぜ不可欠か？

ゼミ生のひとこと



関根先生は経営戦略論やイノベーション論、ベンチャービジネス論などを中心に経営学の基礎から細部まで、分かり易い講義を展開しています。研究熱心で、常に成長を求める姿は、私達の最高の手本であるとともに、最高の教授です。ゼミ内外でも親身に接していただき、就職の話やプライベートな話まで相談のってくれます。

ゼミ生